

「僕が考える人権」

高松市立鶴尾中学校 1年 北山 樹音さん

「おいチビ。」

僕は皆より背が低い。小学校に入学した頃、先輩からそう呼ばれていました。その頃は学校のこともよく理解できていませんでしたが、この言葉にはとても傷つきました。しかし仲のよい友だちに相談し、話を聞いてもらって心が楽になりました。

僕が人権について考えるようになったのは小学校からです。僕の通っていた鶴尾小学校では、毎年冬になると「人権を考える会」という集会があり、それがきっかけで僕は人権について考えるようになりました。

僕の住む高松市には、「大島青松園」という施設があります。ここはハンセン病回復者の方の療養所です。過去にその方々は厳しい差別にあったと学習しました。僕が驚いたのは、こういう差別が一個人によるものでなく、集団、大きいえば国によって行われたということでした。これを知った時、なぜそのような間違いが平気でできたのかを疑問に思うとともに、無性に悲しくなりました。僕は悪口を言われるだけでも、あれ程辛かったのに、彼らは多くの人からいわれのない差別を受け、会いたい人にも会えず、小さな島に閉じ込められ、厳しい環境で暮らしていたのです。そのような人々の思いを考えると本当に許せない気持ちで一杯になってきます。

こうしたことを小学校で学び、集会では次の学年へと伝えて、つなげてきました。学年によっては、劇をしたり、歌を歌ったりと、覚えることが多く、面倒だな、大変だなと思ったこともありましたが、しかし「人権」という言葉の意味も知らなかった自分が、差別や迫害の歴史を学び、人に対する思いやりや、人の思いを尊重する事の大切さを理解できるようになったのは、小学校での学びがあったからだと思っています。

中学生になって約半年が経とうとしています。普段の僕の言動を見直してみると、時々クラスメイトにきつく言葉を浴びせてしまうことがあります。自分も辛い思いをしたことがあるのに、自分の思いばかり優先させてしまう時があります。

「人権」という言葉には、大切な意味があるとともに、言葉自体に重みがあると思います。中学校になってからも人権について考える授業があります。そこで、改めて、皆が笑って過ごせること、差別やいじめを許さないということを考えます。僕にとっての人権とは、差別やいじめを受けることのない、皆が幸せに過ごせる権利を全員が実現できることだと思います。

最後に、「いじめは小さな戦争」だという言葉聞いたことがあります。世界中で起きている紛争を止めることは今の僕にはできないけど、目の前で辛い目にあっている人がいれば、手を差し伸べ、寄り添っていける人になりたいです。